

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	札幌市立藤の沢小学校 第3学年 41名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの歴史や競技種目について理解を深る。 ・リュージュ競技のオリンピックの先輩の講演を通して、目標に向かって取り組む大切さを学ぶ。
5 取組内容	<p>○指導計画【15時間扱い】「リュージュに乗ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの先輩について知ろう (1～2/15) ・オリンピックやリュージュ競技の調査と交流 (3～7/15) ・リュージュ体験を知ろう (8/15) ・ようこそ先輩 (リュージュ体験と講演) (9～13/15) ・学習で学んだことをまとめよう (14～15/15) <p>○取組の様子</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>「ようこそ先輩～リュージュ体験」の学習では、先輩オリンピックの高松一彦さんと札幌リュージュ連盟の皆さんからリュージュの乗り方についての指導を受けた後、2回リュージュでの滑走を体験した。1回目はリュージュの速さに驚いたが、2回目の滑走ではよいタイムを目指してリュージュ体験に取り組むことができた。本物を体験できたことによって、学習を深めた。</p> </div> </div> 



リュージュ体験の後、学校で「ようこそ先輩・オリンピック授業」を行った。先輩オリンピックの高松さんが、オリンピックとリュージュ競技について映像と本物の用具を使って講演して下さいました。リュージュ体験後なのでとても興味をもって学習できた。本物に触れることでしか学べないことを子どもは学ぶことができた。学習した内容は新聞にまとめて、クラス内で交流を行い、それぞれの学びを知り合った。

6 主な成果

- ・本校ではリュージュ競技の先輩オリンピックコーナーが常設されていることからオリンピックへの関心は低くはないが、今回の学習を通してオリンピックとリュージュへの興味、関心と愛校心を更に高めた。
- ・先輩オリンピックの講演を聴くことによって、改めて夢に向かって努力をする大切さを学んだ。
- ・オリンピックの歴史やリュージュ競技を調べることを通して、調べたい内容を明確にし(課題を探究する力)、目的に応じてまとめ表現する力をつけた。

7 実践において工夫した点

- ・先輩オリンピックからリュージュ滑走体験と授業を行ってもらうことからリュージュ競技の先輩オリンピックコーナーを学びの中で利用するように学習展開を設定した。
- ・リュージュ体験では札幌リュージュ連盟に協力をお願いした。

8 主な課題等

- ・今年度は「オリンピックミュージアム見学」を4年生が行ったが、学習内容が3年生と重なる部分があるので、次年度は、3年生が行うとよい。
- ・リュージュ体験は天候に左右される部分があるため日程の設定の仕方を考える。
- ・リュージュ体験での安全指導を事前学習の中でどのように行っていくとよいかをこれから新たに考える。
- ・学習のまとめを新聞制作と交流という形で行ったが、内容を今一度見直してもよいと考える。

9 今後の取組について

- ・課題解決的な学習がより充実するように他の教科・領域と関連を整理することで、より意義のある学習にしていく。
- ・3年生で「リュージュ体験・オリンピックの先輩授業」を行っているので、次年度は総合的な学習の時間のカリキュラムを見直して、3年生で「オリンピックミュージアムを活用した学習」を行うことができるようにする。